

令和2年度 第1回北海道アザラシ管理検討会（打合せ）開催結果〔概要〕について

【日 時】令和2年10月5日（月）13:00～14:15

【場 所】羽幌町立中央公民館 1階 大ホール

【出席者】＜検討会構成員＞小林教授、宮内教授、山村准教授、後藤研究主幹

＜オブザーバー＞唐橋生息地保護連携専門官（環境省北海道地方環境事務所野生生物課）

平田自然保護官、岩原希少種保護増殖等専門官（羽幌自然保護官事務所）

＜事 務 局＞ 藤島課長、山中主幹、杉村主査（環境生活部環境局自然環境課）

遠藤課長、大沼係長、今泉主事（留萌振興局環境生活課）

■議事概要

1 令和2年度 周年定着個体数の状況について

＜発言要旨＞

- ・ 今年度の周年定着個体数については現時点では集計等が進んでいないため、具体的な数字を示すことはできないが、礼文は駆除の影響が上陸場が変わっており、宗谷は変化がない印象。個体数は宗谷振興局管内は変わっていないか少し減っている印象で、天売・焼尻は減っている印象である。

2 アザラシ漁業被害状況等について

＜発言要旨＞

- ・ 令和元年度の被害金額は大きく減ったが、例えばえりもではサケが記録的に不漁だったり、日本海側では魚価安のためカレイ等の刺し網漁をほとんど中止しているなど、漁獲の状況もある。全般的に日本海の漁業資源は回復傾向にあるようだが、被害金額の減少に関する評価が難しい。
- ・ 漁業被害額は漁協への被害聞き取り調査結果とセットで提示し、被害状況を説明するしかない。
- ・ トドの被害でも、20年以上ぶりに被害額が10億円を下回った。また、以前は網ごと魚を食べて網を破っていたが、強化網の試験的な使用により、網に突っ込むようなことをせず魚をついばんで食べるようになった。
- ・ えりもでは、サケ定置網の入口に格子網を付けてゼニガタアザラシの侵入を防いでいるが、サケへの依存が高いため網を破いて中に入るケースが増えている。また、アザラシが網の中のサケを上を追って網の外に出して食べるという新しい被害が出てきている。
- ・ ゴマフアザラシも被害形態が変わる可能性があるので、漁業被害の聞き取り事項に入れておいた方が良い。

3 北海道アザラシ管理計画（第3期）の策定について

＜発言要旨＞

- ・ アザラシが学習して船が近づくだけで逃げてしまい、なかなか捕獲ができなくなっている。今は個体数が減っているので、例えば一度駆除を中止し、逃げなくなるようになってから空気銃から始めてみるなど、長期的に持続可能な捕獲方法の確立を目指すのが良い。
- ・ 日本海北部において、確実に駆除している地域では上陸場を使わなくなってきているが、追い払いだけだとそのまま使っているという印象があるため、その状況をまとめて、どういう方法で駆除等を行うのが良いのか道から提言を出すことが必要。
- ・ 以前より個体数が減った理由が管理計画によるものか明確に言えず、ロシアの環境等が大きく起因していると思われるので、引き続きロシアのゴマフアザラシの生息状況を見ていく必要がある。
- ・ 韓国ではゴマフアザラシが減っている。色々な地域の情報を収集しておく必要がある。
- ・ 次期管理計画の立案に関しては、被害状況に応じて管理目標をフレキシブルに変えていけるというような仕組みを考えると良い。

- ・ 次期管理計画の策定については3月の検討会の議題にし、早めに議論してほしい。

4 北海道アザラシ管理計画 令和3年度事業実施計画について

<発言要旨>

- ・ 令和3年度事業実施計画については、現時点において変更等はなく、次年度の北海道アザラシ管理検討会も、今年度同様に年2回の開催とする。

5 令和3年度 北海道アザラシワークショップについて

<発言要旨>

- ・ 次年度以降のワークショップの開催地については、漁業者に来ていただくため被害のある地域で開催する形が良いのではないかと。
- ・ 3年実施したので、今後はアザラシの管理に関する問題点等を地元の漁業者に説明し、現場の意見を取り入れられるような、意見交換のような形にできると良い。